

MSI Marine News

トピックス

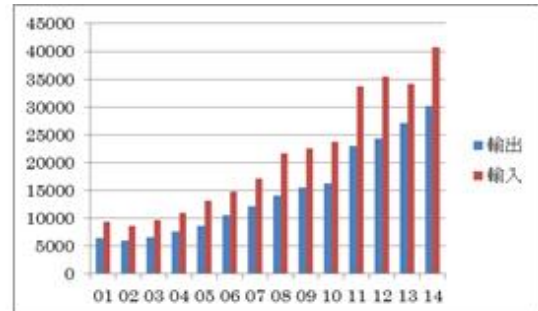
●海上保険の総合情報サイト **MARINEN@vi** もぜひ、ご覧ください。(http://www.ms-ins.com/marine_navi/)



バングラデシュ・チッタゴン港の混雑と船舶事故について

1. バングラデシュの貿易量の増加

バングラデシュ人民共和国（略称：バングラデシュ）は人口約1.6億人（世界第8位）を擁しており、外資系大手アパレル企業も低コストかつ豊富な労働力を求めて現地へ進出しています。主要製品である繊維・衣料品の輸出量が増加するとともに、10年以上にわたりGDP成長率5~7%を維持しています。また同国の主要貿易港であるチッタゴン港の貿易量も年々増加しています（図1）。



【図1】バングラデシュの輸出入量の推移
（出典：在バングラデシュ大使館HP）

2. チッタゴン沖での船舶事故とその対策

チッタゴン港はカルナプズリ川の河口から約10km離れた北岸に位置します。チッタゴン港の荷役能力は年々増加する貨物取扱量に追いついておらず、また2016年9月に発生した港湾従事者のストライキの影響もあり、長期にわたり港湾が混雑しています。現在は船舶の着岸までに4~5日の待機期間を要し、チッタゴン沖で多数の船舶の沖待ちが発生しています（図2）。



【図2】チッタゴン港と沖待ちの船舶
（出典：Marine Traffic HP）

この間、船舶が潮に流され走錨（錨が引きずられて移動）し、他船に衝突する事故が発生しています。

この事故を防止するためには、錨泊している他船との離隔距離に十分な注意が必要です。また自船が走錨する可能性が高くなった際は、当直・見張り番（ウォッチ）は船長に報告し走錨に備えて機関準備（スタンバイ）を行うとともに、他船の走錨に気付いた際は無線や汽笛を使用して他船に注意を促すなどの対応が求められます。

3. 新港開港と事故減少への期待

増加する貿易量を背景にパイラ深海港が2016年に一部開港し、2023年に完成する予定です（図3）。同港はチッタゴン港を上回る貨物量を取り扱うことができるため、チッタゴン港に集中している国際貨物量が分散されて沖待ちが解消され、船舶事故の減少につながることが期待されます。



【図3】チッタゴン港とパイラ深海港の位置
（出典：Google Map）

<参考文献一覧>

- 外務省HP <http://www.mofa.go.jp/mofaj/>
- 日本貿易振興機構HP <https://www.jetro.go.jp/>
- 運輸安全委員会HP <http://www.mlit.go.jp/jtsb/>
- 国際連合HP <http://www.un.org/>
- 日刊海事プレス 2017年1月20日